

私立 聖光学院中学校高等学校 小泉先生 沖田先生 山口先生

今回は、定期試験等でデジタル採点ソフト『採点ナビ』をご活用いただいている
私立聖光学院中学校高等学校の小泉先生、沖田先生、山口先生にお話を伺いました。

インタビュー日 2022年3月17日

※新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用でご対応いただきました。



教育現場において、ICT化からまだまだ
遠い部分にある「採点」業務が、どこまで
デジタルでできるのか興味がありました。

_____ まずは先生方の自己紹介からお願いいたします。

小泉先生：私は数学を担当しています。教務部長ということで、教務関係の
取りまとめもさせていただいております。在職25～26年くらいになりますね。

沖田先生：社会科で地理を担当しております。私は小泉先生より1年長いくら
いなので、だいたい27年目ですね。

山口先生：国語科で現代文を担当しております。ちょうど10年目になります。



左から 小泉先生 沖田先生 山口先生

_____ ありがとうございます。それでははじめに、お問い合わせいただいた
経緯からお聞かせください。

小泉先生：まず、教育現場でICT化を進める中で、「採点」はそこからまだ遠い
部分にあると思うのですが、今一体デジタルでどこまでできるのか、というこ
所に元々興味があったんです。

そんな時に、御社からいただいた採点ナビのDMを見ると、導入校インタ
ビューの記事に私の大学時代の同期が載っておりまして(笑)。そこがとっかか
りになって、「まずはこの話を聞いてみよう」と思いました。

_____ そうだったんですね。「採点はICT化からまだ遠い部分にある」という
ことですが、このような採点システムを検討されたのは、今回が初めてだった
のでしょうか。

小泉先生：実は、3～4年前に一度検討をしたことがありました。
その頃は学校向けで利用をするのは正直厳しいかな、という印象でしたが、
ソフト的にも進化しようだったので、今だったらどのようなことができるの
か、ということに興味がありました。

自動化のメリットは、生徒へのフィードバック
のメリットにも。

_____ そこからご紹介をさせていただいたわけですが、デジタル採点に対し
ては、どのような印象をお持ちでしたか。

沖田先生：実は私の前任校ではマークシートリーダーが導入されていたので、
システムは違えども、採点・集計の自動化メリットは理解していました。採点が
2時間で終わったりするので…。

これは、すぐにフィードバックできるという生徒側のメリットにもなりますよね。
ですから、今回の採点ナビも特に抵抗なく「まずは試してみよう」と思いました。

山口先生：私は現代文担当なので、「記述問題の採点でもちゃんと使えるの
かな？」という疑問は当初感じていました。

手書きでコメントを書き込むことでの、解答用紙を通じた生徒とのコミュニ
ケーションであったり、手書きの温もりであったりがなくなってしまうのでは…
という気持ちもちょっとありました。ただ、デジタル採点って面白そうだな、やっ
てみたいなという気持ちも同時にあったので、使えるのであれば積極的に試
してみようとは思っていました。

_____ その後、説明会・お試し版の利用を経て導入をしていただく運びとな
りましたが、最終的な決め手となったのはどのような点でしたか。

小泉先生：教員の半分以上が「採点ナビ」を前向きに考えて、お試し版で利用
したことが大きかったと思います。学校としても、まずは導入して3年～4年
ほど運用してみよう、ということになり、導入することとなりました。

設定作業がポイント。慣れてしまえば、
使いやすいソフトだと思いました。

_____ 導入にあたりご尽力をいただき誠にありがとうございました。
それでは次に、実際に採点ナビを利用した際の具体的なお話をお聞きした
いのですが、第一印象はいかがでしたか。

沖田先生：操作するにあたり、デジタル採点の仕組みや大まかな流れは事前
に把握した方が良いな、と感じました。私は触りながら覚えていくタイプです
が、そうでない先生は、初めて使う時は少し戸惑うかもしれませんね。
ただ、いざ流れを理解してしまえば、分かりやすいユーザーインターフェース
になっていると思います。

山口先生：私も沖田先生と同じく、ソフトの設定作業は慣れが必要だなと感
じました。

そのため、最初は練習のつもりで小テストの採点から使い始めました。近くに
いる先生と一緒に、「ここはこう設定した方がやりやすいね」と情報共有しなが
ら慣れていった感じですね。慣れてしまえば使いやすいソフトだと思いました。

小泉先生：やはり、ちょっと先に走っている先生がいるといいですよ。うち
は職員室の席が学年ごとになっているのですが、各島に一人ずつは先に慣れ
た先生がいたので、その方を中心に教え合えたのが良かったと思います。

メリットは時間の短縮だけではない。 「採点の質の向上」を実感。

- ・「どういう基準で採点しようか」
⇒システム特有の見方・チェック方法でミス防止
- ・「この要素は得点にしてあげよう」
⇒採点途中でも、ソート機能で漏れなく対応
- ・「この間違い、みんなしてるな」
⇒定型化したコメント入力で効率よく添削、
採点基準の統一化にも

…etc.



小泉先生

「他校様では「採点にかかる時間が大きく削減できた」とのお声をいただくことも多いのですが、その辺りについてはいかがでしょうか。

山口先生：記述問題の採点は、もしかしたらこれまでより時間をかけているかもしれませんが。それに対して、記号問題の採点は圧倒的に早くなりました。ですので、全体的な時間は手採点の場合と同じくらいですかね。ただ、採点の精度が上がっているのも、これからも使っていきたいなと思っています。

沖田先生：私も、時間的にはこれまでと同じかちょっと短いくらいでした。ただ、山口先生もおっしゃったように、採点の質は確実に上がっています。

小泉先生：それは間違いありません。

山口先生：もし、もっと時間が短縮できたとしても、我々は時間いっぱいまで見直しちゃうんじゃないですかね(笑)。

「時間の短縮」というよりも「採点の質の向上」をメリットとしてご活用いただけているということですね。

最後に、今後のソフトへの要望などあればお聞かせください。

小泉先生：先ほど申し上げたスタンプ機能ですが、順番を入れ替えられると利便性が増しますね。問題に応じてテンプレート化、というのも一つの手かと思っています。

沖田先生：配点に小数点も利用できると有難いです。点数の重みをつける上で必要なケースもあるんですよ。

貴重なご意見をいただきありがとうございます。今後も、より使い勝手の良いソフトをご提供するために、改善を進めてまいります。改めまして、本日はお忙しい中ありがとうございました。



沖田先生 山口先生

「なるほど。やはりシステムならではの「ソフトの設定作業」に、いかに慣れるかが、先生方にご使用いただく上で重要になってくるんですね。いざ採点を行ってみて、その後のご感想はいかがでしょう。」

沖田先生：まず、採点の間違いが確実に少なくなりました。採点をした後に、ソート機能で正解にした解答だけを表示して再度見直すのですが、そこで万が一の採点間違いに気付けるのが良いですね。また、生徒の解答を一覧で並べて「どういう基準で採点しようか」と考えられるのもありがたかったです。このようなシステム特有のチェック方法を利用することで、誤りを確実に減らすことができています。

山口先生：私も、採点した解答を正解不正解でソートできるのが非常に大きかったです。特に記述問題で、「この要素はやっぱり得点にしてあげよう」というのが漏れなく直せます。あとは、画面上で解答を拡大して確認できるのも良いポイントでした。紙だと顔に近づけて見るしかできませんので…。

小泉先生：私は、添削のコメントスタンプ機能をたくさん使わせていただきました。当然、手書きの方が自由度は高いですが、同じ間違え方をしている解答が多いので、定型処理で同じコメントを入れることができるのは非常に助かりました。



聖光学院中学校高等学校

